

ウクライナの平和願う



ワークショップでビーズアート作りに取り組む学生たち

写真展やワークショップ



広島文化学園大



4年

松村優依

広島文化学園大（広島市安佐南区）で「ウクライナとつながる3日間」と題した催しがあった。学生が中心となり写真展や講演会、ワークショップを開いた。

ワークショップでは、ビーズを使ったキーホルダー作りや、青と黄のウクライナカラーペーパーで作られたメッセージカードに平和への願いを書く企画があった。教員がウクライナを訪問した際に日本の若い世代との交流の要望があり、同大では2020年度からウクライナの子どもたちとの手紙交換を開始。送られてきた手紙に入っていたビー

ズアートの作品から発想を得て今回のワークショップの開催につながった。「誰でも簡単に作れるビーズアートを通して、日本の子どもたちにもウクライナのことを知つてほしい」との願いが込められている。

訪れた学生や地域の人々はスタッフや教員から取り組みについての説明を聞き、作品作りに当たっていた。ワークショップを考えた子ども学科4年の中本和希さん(21)は「ロシアによるウクライナ侵攻から1年がたつが、ビーズアートやメッセージカードを通してウクライナのことを忘れず、支援につなげてもらえれば」と話していた。

